



南アフリカ新聞号外⑨

SABONA

鈴木 壮太

これまでは、南ア教育の課題について書くことがほとんどでしたが、今回は少し日本と比べながら、現地の学校現場について良いと思ったところを紹介します。

ここがいいよ南アの学校！

その1：喧嘩はするが、いじめがない！

こちらでは、友達を無視したり仲間はずれにしたりする場面を見たことはありません。また、同僚に聞いてもそのようなことはまず起こらないと言います。日本ではそういういじめが多くあることを伝えると、喧嘩すればいいのにどうしてしないの？無視することに何の意味があるの？とのこと。確かに子供たちが喧嘩をしている場面をよく見ます。女子も男子も力任せに叩いたり蹴ったりと、けっこう激しいです。そしてその後、担任に怒られます。しかしひと段落すると、彼らはいつも通り仲良く遊び始めます。非常に関係がさっぱりしているように見えます。

私の感覚からすると、無視したり仲間はずれにしたりすることで、精神的に相手を傷つけることになると思いますが、こちらでは無視をすることに何の意味もないようです。無視されたら、無視した子に対して手を出すし、仮にそのコミュニティを失っても、他の友達と遊ぶようになるでしょう。また、子供はその他にもたくさんのコミュニティをもっています（兄弟、家族、親戚、近所の人たち、教会のメンバー等）。どことなく、地域が大きな家族の

ような雰囲気さえあります。仮に小さなコミュニティと仲良くできなくても、他に逃げ場が多くあります。日本では地域との関わりや家族とのコミュニケーションも減り、クラスの小さなグループに属してないと、他に属する場所が見つけにくく、逃げ場があまりないように思います。



喧嘩中。この後、担任に叱られる。



言い争いをしている。

この写真のように、よく喧嘩して、言いたいことを言い合って、お互いにたくましくなりながら友情を深めていきます。

その2：元気！（体調を崩して学校を休まない）

体調を崩して休む子供がとても少ないです。給食の時間にスナック菓子を食べていて、栄養をしっかりと取れていないように感じますが、なぜかいつも元気なのが不思議です。よく外で遊ぶからでしょうか。

その3：親や教員など、大人に逆らわない！

大人の言うことは絶対で、大人の権限が強いです。日本では子供の意見や思いを丁寧に聞いていくことも多いと思います。しかし、こちらは完全に大人優先。子供はわがままなことを言ったり、指示を聞かなかったりすると、こっぴどく叱られます。お母さんたちもなかなか激しくて、我が子を思い切り叩きます。

その4：好きにする！（群れない）

群れないというより、休み時間が1日に1回しかないので、群れるタイミングがないのかもしれませんが。基本的に、友達に合わせるというより、自分の興味のあること、したいことを優先します。また、給食を1人で食べることも珍しくありません。写真は休み時間の子供たちの様子。



1人だから寂しい、可哀想ということはない。無理にグループに入らなくてよい。気ままに食事を楽しむ。



何人かで一緒にいるようだが、これは個人の集まりなのでグループとは少し違う。友達が近くにいれば話し始める。



もちろんグループで食べることもある。



給食をシェアすることもある。

その5：伸び伸びしている！（やや伸びすぎ）

日本の学校には数え切れないほどのルールがあり、それに従わなければなりません。こちらではルールが非常に少なく、あったとしても曖昧。良くも悪くも、あれやっちゃだめ、これやっちゃだめ、というのが少なく、幼い頃からわんぱくします。そしてよくケガもします。

その6：大人の心にゆとりがある！（良くも悪くも）

教員は授業準備をあまりしません。学校行事もほとんどないので、それに向けた準備もありません。校務分掌（業務分担）もほぼありません。残業もありません。教員に限らず、私の住む地域では大人はせかせかと仕事をせず、ゆったりと働きます。

その7：子供が精神的にタフ！

叱られても、喧嘩しても、失敗しても、すぐに元気を取り戻します。元気を取り戻すというより、そういうことがあっても落ち込まないといった方が良いかもしれません。よく言えばさっぱりしています。悪く言えばあまり反省しません。ただ、普段の生活環境や家庭環境を考えると、子供ながらに多くの苦勞（子供は苦勞とは思わず当たり前を感じているのかもしれない）があるため、ちょっとしたことで動じないのかもしれませんが。基本的に大人も子供もプラス思考である印象です。

その8：毎朝祈る！

教員は毎朝のショートミーティングの始めに、聖歌を歌い神に祈りを捧げます。児童も登校して教室に入ると祈ります。祈ることは毎日欠かしません。みんな信仰深く、神を信じています。宗教は彼らの心の大きな支えになっています。私は祈り方がよくわからないので、このときは大人しくしています。

その9：PTA 活動がなく、保護者の負担が少ない！

保護者が、今年は役員にならないといけなとか、役員だから学校に行かないといけなとか、懇談会で多くの保護者の前で色々と話さなければいけなとか、そういうプレッシャーを感じなくて済みます。（日本のPTA 役員の方はとても大変そうなイメージ。）

以上で、南アの学校現場の良いところの紹介を終わります。課題も多いかもしれませんが、良いところも多くあります。